

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

朝から晩まで会社で過ごしてきて、自分の住む地域の人たちと(1) 関わりを持つていなかったような人が、定年退職などをきっかけに地域の活動に参加するようになることを「地域デビュー」と呼びます。この「地域デビュー」をうまくできる人もいれば、うまくできない人もいます。たとえば、こんな例があります。一流企業で長年にわたって部長職を務めたFさんは定年退職後に「地域デビュー」の時を迎え、あるボランティアサークルに参加しました。Fさんはサークルのメンバーにいきなり「元\*社\*部長F」とかつての肩書き付きの名刺を配り出しました。(2) サークルの運営についても、「一流企業で部長を務めた自分が根本から改革する」と意気込みを見せました。(3) サークルのメンバーの中からFさんへの反発心を持つ人がたくさん現れました。(4) Fさんはもう部長ではありませんし、決して組織改革を託されて呼ばれたわけでもないからです。人間は一つの場合でずっと生き続けていくことはできませんし、同じ立場、同じキャラクターでい続けることもできません。(5) それは悲しいことではありません。変化はチャンスです。新しい場、新しい自分に出会えることは素晴らしいことです。そして、この話は定年退職を迎えたFさんのような年配者だけに当てはまることではありません。多様な自分の可能性の追求が大事なものは若い人でも同じです。つまり万人にとって重要なのです。

- ア また イ だけど ウ ほとんど エ その結果 オ なぜなら



2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力くから選び、記号で書き入れ  
ましよう。(同じ記号は一度しか使えません)

「今の子どもはキレやすい」などとよく言われます。(6) ごく普通に見える少年  
が学校で突然にナイフを持って暴れ出した事件などがよくニュースで報じられています。

(7) 本当に「今の子どもはキレやすい」と言い方は正しいのでしょうか。僕には  
はいくつか気になる点があります。僕たち大人が子どもだった昭和の時代はある意味でひ  
どい時代でした。子どもは近所の空き地で野球をして窓ガラスを割ったり、散々ケンカを  
して相手を泣かせたり、泣かされたりもしました。一方で、大人も子どもをゲンコツ  
で殴って体罰を加えてくるし、怒鳴りつけられることも日常茶飯事でした。それに比べれ  
ば、今の子どもは本当にいい子が多いし、大人も紳士的で優しい人たちが多いと思います。  
あの頃のことを思い出しながら僕は思うのです。昔の人は毎日少しずつ、人間の奥底にあ  
る凶暴な気持ちを小出しにしていたんじゃないかと。すなわち「毎日少しずつキレていた」  
とも言えます。でも今の社会はそういったことがなかなか許されません。(8) 子ど  
もの心の中にたまり続けた凶暴な気持ちがある日限界に達し爆発して大きく「キレて」  
しまうんじゃないかと感じます。さらによく考えてみれば、僕には今の社会では大人もよ  
く爆発して「キレて」いるように思えます。たとえば一見普通のおじさんが街中で声を荒  
げて怒っている場面など珍しいことではありません。おじさんも凶暴な気持ちをためこん  
で、ある日突然爆発しているという点では同様です。(9) 「今の子どもはキレやすい」  
ことについて、僕は二つの点を指摘したいのです。一つは「昔の子どもは日々キレていた」  
という点。言い換えれば「昔も今も子どもはキレやすかった」ということになります。

(10) 「今は大人もキレやすい」という点です。言い換えれば「今は大人も子ども  
キレやすい」ということになります。

カ もう一つは キ だから ク つまり ケ たとえば コ でも